

青森県特別支援学校総合スポーツ大会
ボッチャ競技実施に係る感染症対策ガイドライン

青森県特別支援学校スポーツ連盟
ボッチャ専門部

本専門部は、「令和4年度 第2回青森県特別支援学校スポーツ大会 感染症対策ガイドライン」をもとに、以下に留意し、来場者の安全と感染拡大防止に努める。

1 会場について

- (1) 競技会場出入り口と体育館各所要箇所に消毒液を設置する。
- (2) 試合後は、コート、各校選手待機スペースを消毒、拭き取りを行う。
- (3) 換気扇を常に回す、毎試合後は定期的に外気を取り入れる換気を実施する。
(5分間の換気)
- (4) 各競技会場間の移動は原則禁止とする。
- (5) 全ての来場者にマスクの着用をお願いする。
※参加者については、競技中の未着用を可とする。
- (6) 会場出入口に手指消毒剤を設置し、入退場時には全ての方が手指消毒を行う。
- (7) 大きな声で会話、応援等をしない。マスクを外した状態での会話は避ける。
- (8) タオルや飲料ボトルの共有はしない。
- (9) ごみは原則持ち帰る。
- (10) 常に「ソーシャルディスタンスの確保」と「3密」を意識し、行動する。

2 選手・引率者について

- (1) 大会2週間前から当日まで健康観察を行い、会場受付にて「健康管理チェックシート」を提出する。
- (2) 試合後は必ず手洗い、うがい、洗顔、手指消毒を行う。
- (3) 試合前後の握手、競技中のハイタッチはしない。
- (4) ブレーキやジョイスティック等、手で触れる部分の消毒は適宜行う。
※入退場時、靴の裏やタイヤの消毒を実施する。タイヤカバーをもっている場合は体育館内へ入る際にカバーを装着する。
- (5) 選手は、試合中はマスクを着用しなくてもよいが、常時マスク、またはフェイスシールドを使用することを推奨する。スポーツアシスタントは試合中もマスクを着用する。
- (6) 試合前後の握手、競技中のハイタッチはしない。
- (7) 審判は可能な限り選手や選手の競技用具に触れないようにし、以下のような対応

をする。

- ・各コートにボールパーソンを配置し、エンド後のボールの回収を行う。
- ・スポーツアシスタントがいる選手については、スポーツアシスタントがエンド後のボール回収、エンド開始時のジャックの受け渡しを行う。

- (8) 審判用具は使用ごとに消毒を行う。
- (9) コートは、毎試合終了後にモップ掛けを行う。

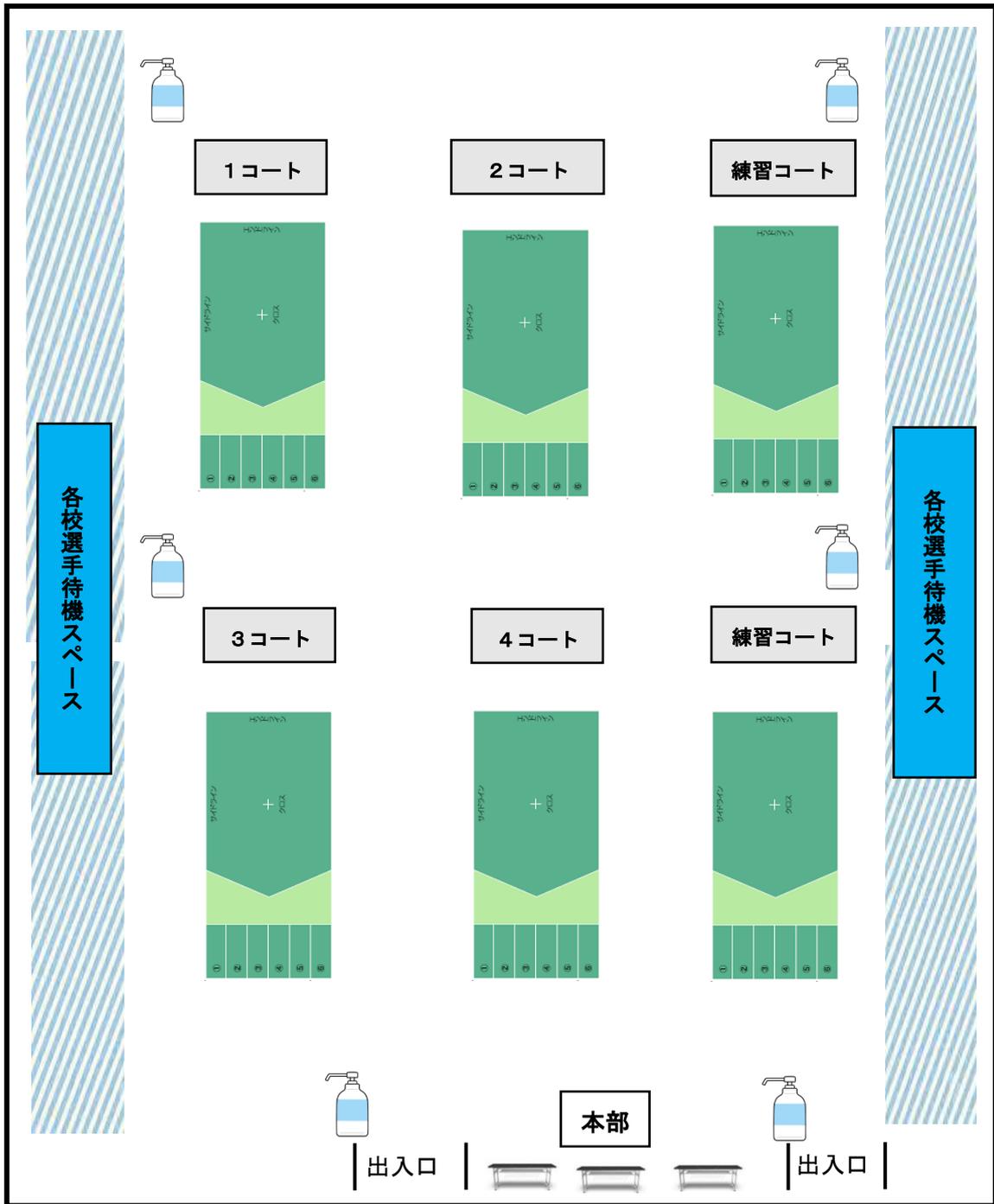
3 待機場所に関すること

- (1) 待機場所はサブアリーナとし、各校とも主催者が指定したベンチを使用する。
- (2) 待機場所から移動する際は、各校が責任をもって使用したベンチの消毒を行う。
- (3) コートへの入退場は、主催者が指定したルートを使用する。
- (4) 選手の着替えは、男女それぞれのロッカー室にて各校の監督立ち合いのもと行う。他競技の選手を含め、一度に利用できる人数は10人程度とし、間隔を十分に確保する。
- (5) 更衣室等、換気の不十分な場所での長時間の滞在は避ける。

4 その他

- (1) マスク着用により、熱中症のリスクが高まるため、適宜十分な水分補給を行う。
- (2) 飲食は、指定場所以外では行わず、周囲の人と距離を取って対面を避け、会話は控える。
- (3) 体調不良等があった場合には、必ずボッチャ専門部に報告する。
- (4) 不測の事態が発生した場合は、連盟事務局と連携し、本専門部長の指示のもと、来場者の安全と感染拡大防止を最優先に対応する。
- (5) 参加者の中に感染者がでた場合は、その他の参加者に対して各関係機関を通じて連絡を取り、症状の確認、場合によっては保健所などの公的機関に連絡がとれる体制を確保する。
- (6) 見学については、参加校の児童・生徒、教職員及び保護者とし、来場にあたっては、選手・引率者同様に会場受付にて「健康チェックシート」を提出する。

<会場図>



入退場時、靴の裏やタイヤを消毒